

# 令和元年度 佐賀県立多久高等学校 学校評価計画

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>◎「自分の夢を形に」 校訓「仁愛・自主・創造」のもとに、教職員と生徒が敬愛と信頼のなかで、文教の風薫る校風の創造をめざすとともに、自らの夢を描き、目標に向かって挑戦する意欲を持ち、その実現へ前進する「知・徳・体」の調和のとれた、心身ともに健全な生徒を育成する。 「仁愛」:すべての人を真心から尊重し大切にす (徳:礼節と思いやりのある豊かな心) 「自主」:何事にも積極的に取り組んで成し遂げる (体:強い意志と実行力) 「創造」:挑戦する心で豊かな未来の実現に努める (知:挑戦する心と未来を創る知性)</p> <p>○めざす生徒像 自らの夢を描き、目標に向かって意欲的に挑戦し続ける生徒</p> <p>○各系列が設定する具体的な生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文科学系列……言語や文化、自然現象を科学的に捉える知識・教養を持ち、コミュニケーション能力を身につけた生徒</li> <li>・健康福祉系列……福祉のスペシャリストをめざし、その知識・技能とともにノーマライゼーションの精神を身につけた生徒</li> <li>・商業ビジネス系列…商業ビジネスの分野で即戦力となる知識・技能やマナーを身につけた生徒</li> <li>・工業技術系列……ものづくりを通して自らの技術を磨き、工業やデザイン分野での次世代を担う人材となる知識・技能を身につけた生徒</li> </ul>
---

<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <p>①わかる・力がつく授業の実践、キャリア教育の充実、進路意識の向上 …… 基礎学力の向上、専門的な知識・技能の習得 ②学びのための環境づくり …… 「いじめ」の防止対策の推進、情報モラル教育の推進、自律心の育成、ボランティア精神の涵養 ③生徒会活動・部活動の活性化 …… 部活動の奨励、健康の自己管理能力の育成 ④働き方改革を踏まえ、限られた時間内での専門性を生かす …… 業務の精選と効率化、職員の健康意識の高揚を図る</p>
---

**3 目標・評価**

**わかる・力がつく授業の実践、キャリア教育の充実、進路意識の向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	志を高める教育	自らの夢を描き、目標に向かって意欲的に挑戦し続ける生徒の育成	自らの意思で自分の将来に応じた系列を選択する。	それぞれの生徒の夢や希望を実現するために必要な学びの基本を示しながら、自らの将来を見据えた系列選択を促す。
	●学力向上	基礎学力の定着	学習習慣の定着	全校で毎朝の学習を実施し、基礎学力、学習習慣の定着を図る。
		自己表現力の育成	伝えることを目的とした表現力の向上を図る。	各HRや授業時などあらゆる場面で自己アピールや表現の場をつくる。 1年:宿泊研修やLHR、「産業社会と人間」を通して実施する。 2年:インターンシップやボランティア体験、その後の発表活動を通して実施する。 3年:1分間スピーチの実施、発表会において実施する。
		資格取得の奨励と学力及び専門性の向上	人文系列を中心に履修する生徒に対して、進路希望に応じた学力をつけさせる。	人文コース 基礎力診断テストC、Dランクの割合の減少を目指し、成績上位層の引き上げを図る。
			専門系列を中心に履修する生徒に対して、資格取得者の増加をめざす。	工業技術系列…三級技能士(旋盤、保全)などの取得向上、ジュニアマイスターシルバー10名以上、そしてゴールド取得をめざす。 健康福祉系列…介護職員初任者研修における介護実習において施設との連携をはかり、介護職としての資質及び人間性の向上を目指す。 福祉住環境コーディネーター3級検定合格7割以上を目指す。 商業ビジネス系列…3種目以上1級取得10名以上、高度資格取得をめざす。
	○図書館教育	日常の読書指導	生徒が読書に親しむ環境を整え、来館者、貸し出し数の増加をめざす。	「図書館だより」等で図書館情報の発信を積極的に行い、生徒の興味関心を引くような選書に努め、一人あたりの年間貸出冊数5冊以上を目標とする。
学校運営	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT機器の利活用の推進と環境づくり	ICT利活用の機会を増やし、効率的でわかりやすい授業と学習指導をめざす。また、利活用しやすいように環境を整備する。	ICT利活用に関する校内研修(・デジタル資料を効率よく準備する・教科の特性に応じた授業スタイルの工夫・デジタル教材を使用した授業実践を推進する。・公開授業でのICT利活用・情報リテラシー)を行う。

**学びのための環境づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	思いやりの心、感謝する心、豊かな心を育む	仁愛の心の育成を図り、周りに感謝する心を育む活動を行う。	規範意識・人権意識・道徳心・基本的な生活習慣等の育成のため、発達段階に応じた資質や能力、態度を育成する。
	○図書館教育	図書館行事の活性化	クラス読書会、論語カルタ会の充実を図る。	図書館利用のマナーやルールを通して、規律意識を身につける。また、読書を通して様々な考え方や風習を知ること、道徳心や人権意識を育成する。
	●心の教育	不登校等の問題の早期発見早期解決	不登校生徒への関わりと支援体制の充実を図る。	生徒をよく観察し、職員間の連携を密にすることで、気になる生徒の早期把握に努め、支援体制の確立を図る。教室への入室が困難な生徒に対しては、別室登校指導の申し合わせ事項に則り、適宜対応する。
	●いじめの問題への対応	いじめなどの問題の早期発見、早期解決	いじめの早期発見と対応に努める。	年2回のQUテスト及びいじめ実態調査を実施する。QUテストの結果を活用し、いじめのない学級・学校づくりに努める。また、いじめ実態調査実施後は、いじめ調査委員会を開催し早期対応に努める。
	●健康・体づくり	校内美化の推進	教職員・生徒一体となった美化活動を推進する。	毎日の全員掃除を徹底し、月1回(年間12回)程度の大掃除を行う。美化委員がごみの持ち帰りの推進とごみ収集の際に分別作業の補助を行ない、可燃ごみ量を、昨年度比5%削減を目指す。
	○特別活動	生徒会行事の充実	多久高祭等行事の充実を推進する。	生徒減での完成年度として、体育祭・文化祭の内容について検討し、少人数の中でも生徒間の協調性と団結力を養う。また、自ら進んで行事に参加することで積極性を養う。
学校運営			積極的にボランティア活動を実践する。	校内での清掃活動等に加え、校外での清掃活動、募金活動、施設訪問等のボランティア活動を行い、思いやりの心を育む。
	○特別支援教育	障害をもつ生徒の支援	障害をもつ生徒への特別支援教育体制の充実を図る。	必要な場合に応じて校内支援委員会を開催し、巡回相談を活用する。保護者や関係機関との連携を図りながら支援を進める。

**生徒会活動・部活動の活性化**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図り、健康な心身を育成する	問題行動の未然防止と減少を目指す。	校則や公共のルール・マナーを守る自己指導能力を習得させる。また、諸問題に対し、迅速に対応・検討して情報発信に努め、問題行動の未然防止に役立てる。
			円滑な指導と情報交換ができる体制作りを行う。	各学年や他分掌との連携を強化して生徒情報を把握する。また、校内外での巡回指導や関係機関との連絡を強化し、早期発見・早期対応を目指す。
	●健康・体づくり	生徒の健康管理と健康指導の推進	生徒の心身の健康課題解決に向け校内外(家庭・地域)連携の充実を図る。また、生徒自らが、健康を意識して学校生活を送ることができるよう指導を行う。	健康診断結果や、保健室来室状況等より生徒の健康課題を把握し、保健指導につなげる。また、支援が必要な生徒に対しては、校内関係者間の情報・課題の共有化を行う。(支援会議や保健だより等を通して)
○特別活動	部活動の活性化	部活動の加入率を高め、リーダーを育成することにより、活性化につなげる。	新入生に対する部紹介、勧誘を充実させ、新入生には学年と連携し入部率の向上を図る。活動時間を有効に使いながら、自主的自発的な活動を通して学校の軸となる自覚を促す。	

**働き方改革を踏まえ、限られた時間内での専門性を生かす。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・クラス編成や教育課程の編成 ・業務全体や個別の内容を見直す ・労働環境の整備	・系列会議、カリキュラム委員会を通してよりよいクラス編成や教育課程を編成する。 ・費用、時間、労働対効果を考慮して行事や業務を精選し、また各行事について運営方法等を見直す。 ・職場環境の改善。	・現在の職員配置や教科・系列の専門性や持ち味を生かすことのできるクラス編成や教育課程の編成。 ・小高連携事業の内容を見直す。 ・SEI-Netの機能を職員へ周知し、利活用の定着を進めることで業務のスリム化を図る。 ・効率的な業務の一助となる設備や機材の配置・整備。



